

## 第4学年1組 図画工作科学習指導案

令和元年9月17日(火) 第5校時

授業場所 図工室

在籍児童数 25名

指導者 教諭 川口珠江

## 1 題材名 「カードで味わう形・色」

## 2 題材について

## (1) 題材観

本題材は、材料の特徴を味わいながら色を選んだり、思いついた形を切ったり組み合わせたりしながら、自分のイメージを広げていく内容である。同じ形でも違う色であれば受ける感じ方が変わったり、同じ色であっても違う形であれば受ける感じ方が変わったりすることがある。また、同じ形や色でも紙の厚さや手触りから受ける感じ方に違いがあり、組合せによっても印象が変わったりしてくることもある。児童は、いろいろな形や色を組み合わせることを試しながら、カードの形や色の組合せに対して次第にイメージを明確にもつようになる。模様カードの表現やイメージを伝える言葉のつながりには正答はなく、子供一人一人の経験や知識と重なりながら様々な言葉で表される。

このような感じ方の違いやよさは「鑑賞ゲーム」を通して互いに味わうことができる。同じ言葉から児童それぞれが選ぶ違う模様カードによる感じ方の違いに気付くとともに、異なる言葉から同じ模様カードを選ぶ不思議さも体験できる。それだけではなく、選んだ理由を語り合うことで自分や友達の感じ方の違いを受け入れたり、見方が変わっていったりする。本題材は、ゲーム性を取り入れて友達と関わっていく中で、言語活動を通して児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図りながら、自分の見方や感じ方を広げていく上で価値があると考えられる。

## (2) 児童観

本学級の児童は、「図画工作科は好きですか」という質問に対し、約90%の児童が「好き」と答えている。好きと答えた児童の理由は、主に「ものを作るのが好きだから」「絵を描くのが得意だから」「自分のイメージをそのまま絵にしたり、ものを作ったり、想像するのが楽しいから」「でき上がった時の達成感が好きだから」「自分だけのオリジナルのものができるから」などであり、作品を作ることすなわち「表現」に興味・関心が高いことが分かる。これに対し、「友達の作品を見合って、鑑賞できるから」すなわち「鑑賞」に興味・関心があると答えたのは1名という少なさであった。

1学期の図画工作の授業における鑑賞としては、作品を見合い、それぞれの児童がよいと思ったところを付箋に書いたり、発表したりする活動を行った。今後、さらに児童同士で鑑賞し合い、互いの作品のよさに気付く活動を通して、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすよう活動の工夫が必要と考えている。

## (3) 指導観

本題材の指導に当たっては、図画工作の目標にある「造形的な見方・考え方」(対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら、意味や価値をつくりだすこと)を働かせることができるよう学習活動を工夫する。初めにいろいろな色や形、材料の触った感じから児童一人一人

がもつイメージについて話し合う活動を設定する。色や形、手触りなどから思い浮かべられるイメージを体験的に捉えさせる。次に、言葉を書いたカードの中から1枚を選ばせ、そこに書かれた言葉から思いつく形や色、動き、音などをイメージマップに書かせる。そして、教師が用意した色画用紙、色紙、お花紙を、児童一人一人に選択させ、自由な形に切り取らせる。切った紙は、様々に組み合わせながら、児童一人一人のイメージに合う模様をつくらせる。できあがったカードは、他のグループと交換させ、言葉を書いたカードと模様カードをつなぐゲームを行う。ゲームにおいて、グループ内で異なったイメージの作品については、その理由を全体で交流したり、模様カードをつくった人の説明を聞いたりすることで、色や形、材料の組合せに対して、様々な感じ方があることに気付かせていく。

### 3 題材の目標

○形や色の組合せに関心をもって表したり、色や形、材料を触った感じからイメージすることを楽しんでしている。 【関心・意欲・態度】

○材料の特徴やよさを生かし、形や色の組合せを工夫して表す。 【創造的な技能】

○形や色の組み合わせを試しながら、表したいイメージを見付ける。 【発想・構想の能力】

○自分の感じ方を言葉にしたり、友達の見方、感じ方の違いやよさを味わったりする。 【鑑賞の能力】

### 4 研究主題とのかかわり

「カリキュラム・マネジメントによる学校教育活動の改善に関する研究」  
～ SDG s の実現を目指すE S Dの取組を通して ～

本校児童に身に付けさせたい資質・能力である「困難な課題に立ち向かい、様々な人々と力を合わせて解決しよりよい未来を創ろうと考える力」を育成するためには、SDG s（持続可能な開発目標）、E S D（持続可能な社会の担い手を育む教育）の視点を取り入れた教育課程を編成し、体系的・継続的な教育活動を実践していくことが求められる。そこで、次の2つの手立てから研究主題に迫っていく。

#### 【研究主題に迫るための手立て①】

SDG s、本時におけるE S Dの視点を明確にし、本校児童に付けたい資質・能力を育成する。本題材では次の視点とする。

SDG s 17：「パートナーシップで目標を達成しよう」

E S Dの視点：3 他者と協力する態度

→自分のイメージをもちながら、グループで協力してカードを作ったり、ゲームをしたりする態度。

4 コミュニケーションを行う力

→自分の意見をきちんと伝え、相手の意見を聞き話し合う力。

5 多面的、総合的に考える力

→話し合いを通して、色々な考え方があることに気づき、それらを合わせて自分の考えをよりよいものにする力。

#### 【研究主題に迫るための手立て②】

教科横断的な指導の観点を明確にし、心を開き楽しく活動し、友達と関わり合う力を育てる。

総合的な学習の時間 「ともに生きよう」

学級活動 「みんな仲よく」

道徳 「心の信号機」「心と心のあく手」「温かい言葉」

図工 「いい場所見つけて、囲んでみよう」「ハッピーカード」「ゆめいろらんぷ」

## 5 単元指導計画（3時間扱い）

時間	主な学習活動	主な手立て	評価規準
90'	<p>材料の特徴を味わいながら、イメージをふくらませ、イメージを表す言葉に合わせて紙を切ったり切った形や色の組み合わせを考えたりしながら模様カードをつくる。</p> <p>(表)</p>	<p>○発想のきっかけとするために、形や色に着目してどんなイメージをもつかを考える資料を提示する。</p> <p>○イメージをより確かなものにするために、言葉から浮かんだものを児童一人一人にイメージマップに書かせる。</p> <p>○材料による感じ方の違いに目を向けることができるようにするために、色紙や色画用紙、お花紙を用意しておく。</p> <p>○あくまで「模様カード」をつくるので、具体的な形をつくらないように指導する。</p> <p>○イメージを表す言葉に合わせたカードづくりの手がかりとするために、「形」「色」「材料を触った感じ」の3つの視点を提示する。</p> <p>○発想を広げるために、同じグループの友達同士で形を交換してもよいことを助言する。</p>	<p>・形や色、材料の感じに関心をもって、イメージをもつことを楽しんでいる。</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>・選んだ言葉から想像を膨らませ、イメージマップに書いている。</p> <p><b>【発想・構想の能力】</b></p> <p>・材料の特徴やよさを生かしながら、イメージに合う形や色の組み合わせ方を工夫して表している。</p> <p><b>【創造的な技能】</b></p>
45' 本時	<p>グループで言葉カードと模様カードを組み合わせるゲームをし、友達と自分の感じ方の違いやよさを楽しみながら伝えあう。</p> <p>(鑑)</p>	<p>○製作過程でのお互いのつぶやきがゲームに影響しないようにするため、見合う対象が他のグループの作品になるようなグループ配置をする。</p> <p>○自分の考えに根拠をもって話をさせるために、「形」「色」「触った感じ」から感じたことという3つの視点で書かれた例文を提示する。</p>	<p>・「形」「色」「触った感じ」に着目して鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げている。</p> <p><b>【鑑賞の能力】</b></p>

6 本時 (3/3)

(1) 本時の目標

友達作品のよさや美しさ、作品に込められた思いを、色や模様、形や材料の感じ、そこから受けるイメージに着目して感じ取り、自分の見方や感じ方を広げることができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 ・ 予想される児童の反応	・ 指導上の留意点 評価規準【評価方法等】 ◎十分満足できる状況 ◆C判断児童への手立て
導入 2'	1、前時をふり返り、本時のめあてを確認する。	・ 各グループで作った時の気持ちを、思い起こさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     提案 模様のよさや面白さをみつけよう。                 </div>		
展開 35'	2、他のグループの作品についてのマッチングゲームをする。 (1) 模様カードと言葉カードの組み合わせをグループで考える。 ・ 赤やオレンジ・ピンクはあたたかくてほっとするから、ハッピーな感じかな。元気な感じにもなるね。 ・ そうだね。ピンクも同じだね。やさしい感じにもなるね。 ・ 同じ赤でも、角があると怒っている感じになるね。 ・ 青は、水や氷のイメージから、かなしい感じかな。泣く感じにもなるね。悔し感じはどうかな。 ・ 白が多いとどんよりした感じかな。 ・ 丸や波線はやさしい感じかな。お花紙も柔らかいね。 ・ ぎざぎざは怖いような、ぞわぞわするような感じがするね。 ・ 黒や青、とがったものがあると怒っているような感じがするね。 ・ 丸がいっぱい貼ってあると、ふわふわした感じになるね。 ・ そうだね。形によっても雰囲気は変わるんだね。 ・ たくさんの色を使うと、にぎやかで楽しい感じになるね。	・ 自分の考えに根拠をもってわけを説明させるために、「形から感じたこと」「色から感じたこと」という2つの視点と文例を、提示する。 ・ 自分の考えがもてない児童には、まず色から考えてみるように助言する。 ・ 根拠を明らかにするために、模様カードのどこからそう感じたのかを指差しながら自分の考えを言わせる。 ・ 誰もが安心して発言できるようにするために、違う意見も否定せずに受け入れるように助言する。 ・ 全員の考えを大切にするために、グループの全員が自分の意見を伝えてから、グループの考えをまとめるようにさせる。 ・ 目的意識をもって友達の話聞くことができるように、自分の考えと同じところや違うところ、なるほどと思ったところを考えながら聞くように助言する。 ・ 形や色、材料を触った感じからイメージすることを楽しみ、友達の発表を自分の気づきや感じ方と比べながら聞いている。 ・ 友達の意見と、同じところと違うところがあるのか考えるようにさせる。



- (2) 相互グループで考えを交流する。
- ・このカードは、～ところから～と思った。
  - ・そういう考えもあるね。
  - ・ぼくたちは、この形から～という言葉にしたんだよ。
  - ・そう言われればそういう風にも見えるね。

- (3) 全体で考えを交流する。
- ・わたしたちのグループは、このカードを～だと思いました。その理由は、～だからです。

- ・製作者のもつイメージと合っているか、異なっているかにこだわることはないように友達の解説と実際の模様カードを見比べ、友達がカードに込めた思いを考えるよう助言する。
- ・作者の思いにも触れさせるようにするために、模様カードをつくったグループに実際の組み合わせを説明させる。
- ・形や色などから受ける印象を、他のグループに根拠をあげて説明している。
- ・いろいろな見方や感じ方があることを知り見方や感じ方を深めている。
- ・形や色などから受ける印象を、対話から具体化させる。

整理  
8'

3、本題材をふり返り、本時をまとめる。

- ・自分の考えと似ているところや違うところ他の人の考えを聞いて気づいたことや、作者の思いを知って感じたことなどの感想をまとめさせる。

鑑 「形」「色」「材料の感じ」に着目して鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げている。

【振り返りカード・発言・観察】

◎友達の感じ方と比べて自分の感じ方をより確かにしたり、友達の感じ方を取り入れたりしている。

◆交流を生かして自分の見方や考え方を広げられたことを記入させる。